

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-224271

(43) 公開日 平成8年(1996)9月3日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 F 13/56			A 6 1 F 13/18	3 5 0
13/15			B 3 2 B 5/02	Z
B 3 2 B 5/02			A 4 1 B 13/02	K
			A 6 1 F 13/18	3 2 0

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平7-35155

(22) 出願日 平成7年(1995)2月23日

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 鈴木 陽一

栃木県宇都宮市下河原1-3-33 ナイス
アーバン下河原

(72) 発明者 今野 玲子

栃木県河内郡上三川町上蒲生2166 花王上
三川社宅

(72) 発明者 豊島 泰生

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606-6 花王赤
羽寮

(74) 代理人 弁理士 羽島 修 (外1名)

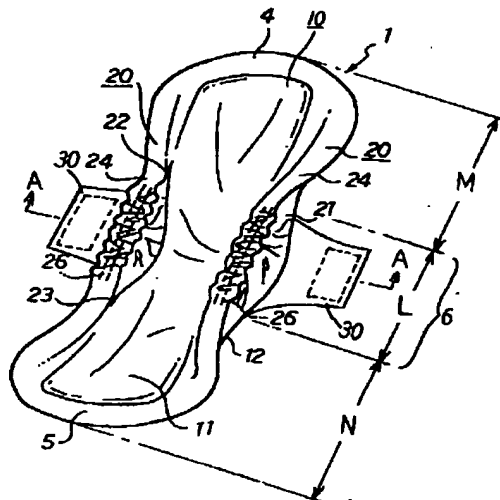
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 吸収性物品

(57) 【要約】

【目的】 着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性に優れ、横漏れの生じる惧れが少ない吸収性物品を提供すること。

【構成】 トップシートとバックシートと吸収体とを具備する中央吸収体部、及び該中央吸収体部の左右両側部に設けられたフラップを有し、該フラップは非肌当接面側に連設されており、トップシート側に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部の左右両側縁に位置する防漏壁を形成しており、外方に向けて折り返されて防漏面を形成しており、該防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、該部位における上記防漏面が肌当接面と略平行な面状に形成されており、該中央吸収体部の左右両側縁部における非肌当接面側に吸収性物品を固定するウイング部が連設されている吸収性物品。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、両シート間に配されてなる吸収体とを具備する中央吸収体部、及び該中央吸収体部の左右両側部に設けられたフラップを有する吸収性物品において、

上記フラップは、上記吸収性物品の非肌当接面側に連設されており、また、上記中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部の左右両側縁に位置する防漏壁をそれぞれ形成しており、更に、上

記防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、上記の排泄部に当接する部位における上記防漏面が上記中央吸収体部の肌当接面と略平行な面状に形成されており、

上記中央吸収体部の左右両側縁部における非肌当接面側に、使用時に吸収性物品を固定するウイング部が連設されている、

ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項2】 上記防漏面に弾性部材が配されていることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項3】 上記ウイング部は、上記バックシートの上記の排泄部に当接する部位に対応する部分の左右両側縁部を延長して形成されていることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項4】 上記ウイング部は、非肌当接面よりやや上方において上記フラップに接着固定されていることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、生理用ナプキン等の体液を吸収するために肌に接触して着用される吸収性物品に関し、詳しくは、特に横漏れの防止性能に優れた吸収性物品に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来より、紙おむつ、生理用ナプキン等の吸収性物品は、種々提案されており、実用に供されているが、横漏れにより使用者の着衣を汚損することがあり、これにより使用者に不快感を与えるといった問題があるため、この問題を解消すべく種々改良がなされている。

【0003】例えば、吸収性物品の長手方向両側に防漏壁を形成すること、吸収性物品自体の形状を予め装着部位の形状に対応した形状とすること、弾性体を設けて装着時における形態の変化に追従しうるようにすること等が提案されており、具体的には、実公昭60-19693号公報には、トップシートとバックシートとを左右両側方で貼り合わせたフラップ部分を吸収性物品の表面に折

り曲げてなる吸収性物品が提案されており、特公昭60-3491号公報には、トップシートとバックシートとを左右両側方で貼り合わせたフラップ部分を吸収性物品の表面に折り曲げた後、更に外側に向けて折り返してなる吸収性物品が提案されている。

【0004】しかし、上述の吸収性物品は、使用者が排泄部を吸収体中央部に位置させ、身体に密着した下着を着用する装着状態では、吸収体本体からの液漏れを低下させるものの、未だ完全に液漏れを抑制するには至っていない。特に、実際の使用時においては、吸収性物品の装着状態が上述の装着状態ばかりではなく、排泄部が吸収体の中央部よりズレた状態で装着されたり、装着された吸収性物品が着用者の動きによる複雑な形態に追従し得ず、吸収性物品と装着部位との間に隙間ができたりする場合があります、このような場合、上述の吸収性物品では着用者の満足のいく液漏れ防止効果が得られないのが現状である。また、上述の吸収性物品は、いずれも折り曲げたフラップ部分の前後両端を、吸収性物品の前後両端部において吸収性物品と接着させたものであり、着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性が十分ではなく、依然として横漏れを生じるものであった。

【0005】従って、本発明の目的は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性に優れ、横漏れの生じる恐れが少ない吸収性物品を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、両シート間に配されてなる吸収体とを具備する中央吸収体部、及び該中央吸収体部の左右両側部に設けられたフラップを有する吸収性物品において、上記フラップは、上記吸収性物品の非肌当接面側に連設されており、また、上記中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部の左右両側縁に位置する防漏壁をそれぞれ形成しており、更に、上記中央吸収体部の外方に向けて折り返されて防漏面を形成しており、上記防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、上記の排泄部に当接する部位における上記防漏面が上記中央吸収体部の肌当接面と略平行な面状に形成されており、上記中央吸収体部の左右両側縁部における非肌当接面側に、使用時に吸収性物品を固定するウイング部が連設されている、ことを特徴とする吸収性物品を提供することにより上記目的を達成したものである。

【0007】

【作用】本発明の吸収性物品は、非肌当接面側に連設されたフラップが、上記中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて防漏壁を形成しており、更に折り返されて防漏面を形成している。また、上記防漏壁は、

着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、これにより、上記の排泄部に当接する部位における上記防漏面が上記中央吸収体部の肌当接面と略平行な面状に形成されている。更に、上記非肌当接面側にウイング部が連設されている。そして、本発明の吸収性物品である生理用ナプキンは、このような構造を有することにより、フラップと中央吸収体部との間にサイドポケットが形成され、上記トップシートの表面より体液が流れても該体液がフラップを伝わって漏れることがなく、また、防漏面を生理用ナプキンの肌当接面よりも高い位置に設けることができるので、吸収体がよれて厚くなってもフィット性が低下することがない。また、防漏面が装着時に着用者の肌に沿って広がり、フラップが吸収体に折り込まれることがないため、安定してサイドポケットが形成され、更には、吸収体のよれが抑制される。更に、上記ウイング部により強固に固定されるので、ズレが生じない。

【0008】

【実施例】以下、図面を参照して本発明をより具体的に説明する。ここで、図1は、本発明の吸収性物品の第1の実施例としての生理用ナプキンを示す斜視図であり、図2は、図1に示す生理用ナプキンの断面を示す模式図である。

【0009】図1及び図2に示す本実施例の生理用ナプキン1は、液透過性のトップシート11と、液不透過性のバックシート12と、両シート間に配されてなる吸収体13とを具備する中央吸収体部10、及び該中央吸収体部10の左右両側部に設けられたフラップ20を有する。このような構造は、通常の生理用ナプキンと同様の構造である。

【0010】更に、本実施例の生理用ナプキン1について説明すると、上記トップシート11及び上記バックシート12は、それぞれ延長部を有するように、上記吸収体13よりも全体に大きく形成されている。そして、上記フラップは、上記トップシートの延長部と上記バックシートの延長部とを貼り合わせて形成されている。また、これにより、前方縁部4及び後方縁部5を形成している。ここで、上記トップシート11及び上記バックシート12は、ヒートシール法、接着剤法等の通常の方法によって貼り合わされている。

【0011】また、上記生理用ナプキン1の中央吸収体部10における非肌当接面3上には、生理用ナプキン1の使用時に該生理用ナプキン1をショーツに貼着するためのズレ止剤（図示せず）が設けられている。

【0012】上記トップシート11及び上記バックシート12を形成する材料としては、通常、生理用ナプキン等の吸収性物品のトップシート及びバックシートとして用いられるものであれば特に制限なく、用いることができる。また、上記吸収体13は、パルプ及び高吸収性ポ

リマー等からなる通常公知の吸収体を特に制限なく用いることができる。

【0013】而して、本実施例の生理用ナプキン1は、図1及び図2に示すように、上記フラップ20が、上記生理用ナプキンの非肌当接面3側に連設されており、また、上記中央吸収体部10のトップシート11側に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部10の左右両側縁に位置する防漏壁21をそれぞれ形成しており、更に、上記中央吸収体部10の外方に向けて折り返されて防漏面24を形成しており、上記防漏壁21は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位6の前方部及び後方部において上記中央吸収体部10に固定されており、上記の排泄部に当接する部位6における上記防漏面24が上記中央吸収体部10の肌当接面2と略平行な面状に形成されており、上記中央吸収体部10の左右両側縁部における非肌当接面3側に、使用時に生理用ナプキン1を固定するウイング部30が連設されている。

【0014】更に詳細に説明すると、図1及び図2に示すように、上記トップシート11は、上記吸収体13の側面を覆って、その延長部を上記バックシート12の延長部に貼り合わせられており、これにより、上記トップシート11の延長部と上記バックシート12の延長部とにより形成される上記フラップ20が、上記非肌当接面3側に連設されている。

【0015】また、上記フラップ20は、図2に示すように、上記中央吸収体部10の側縁において折り曲げられることにより、上記防漏壁21を形成しており、更に、生理用ナプキン1の肌当接面2よりやや上方にて上記中央吸収体部10の外方に向けて折り返されて、上記防漏面24を形成している。

【0016】また、上記防漏壁21は、上記の排泄部に当接する部位6の前方部及び後方部において、前方部の固定部22（図1参照）及び後方部の固定部23（図1参照）を介して上記中央吸収体部10における上記トップシート11に固定されている。ここで、上記の「排泄部に当接する部位」とは、生理用ナプキンの使用時ににおいて、着用者の排泄部に当接される生理用ナプキンの表面部分を指し、具体的には、生理用ナプキンの長手方向に対する上記固定部22と上記固定部23との間に位置する部分である。また、上記「前方部」とは、上記の排泄部に当接する部位6よりも前方（着用者における前側）に位置する部分の全てを指し、上記前方縁部も含む。更に、上記「後方部」とは、上記の排泄部に当接する部位6よりも後方（着用者における後側）に位置する部分の全てを指し、上記後方縁部も含む。また、上記固定部22、23は、通常、吸収性物品に用いられる接着剤等を用いて又はヒートシール等により容易に形成することができる。

【0017】そして、このように、固定されていることにより、図2に示すように、上記の排泄部に当接する部

位6における上記防漏壁21と上記中央吸収体部10との間にサイドポケット25が形成されており、また、上記の排泄部に当接する部位6における上記防漏面24が、上記肌当接面2のやや上方において、上記中央吸収体部10の肌当接面2と略平行な面状に形成されている。

【0018】また、図1及び図2に示すように、本実施例の生理用ナプキン1は、上記前方縁部4及び後方縁部5において上記フラップ20を固定しておらず、前方部の固定部22より前方（生理用ナプキンにおける使用時に着用者の前側に位置する部位）及び後方部の固定点23より後方（生理用ナプキンにおける使用時に着用者の後側に位置する部位）においては、それぞれ前方又は後方に向かうに従って次第に上記の折り返された状態が解除されて、上記フラップ20が略フラットな面状形状となるようになされており、上記防漏面24の肌当接面2との略平行な形状及び上記サイドポケット25を安定して形成・保持している。

【0019】また、本実施例の生理用ナプキン1において、上記排泄部に当接する部位6の長さLは、好ましくは3～20cmであり、更に好ましくは5～15cmである。また、上記生理用ナプキン1において、上記固定部22より前方に位置するナプキン前方部の長さMは、好ましくは0～10cmであり、更に好ましくは2～8cmである。更に、上記生理用ナプキン1において、上記固定部23より後方に位置するナプキン後方部の長さNは、好ましくは3～25cmであり、更に好ましくは5～18cmである。

【0020】また、上記排泄部に当接する部位6における上記防漏面24の幅Sは、好ましくは0.5～4cmであり、更に好ましくは0.7～2.5cmである。0.5cm未満であると、上記防漏壁21が中央吸収体部10上に伏倒してサイドポケット25が形成されない場合があり、4cmを超えると、防漏面24の平面形状が維持し難く、更には、液漏れを誘発する場合があるので、上記範囲内とするのが好ましい。また、上記防漏面24の高さ（非肌当接面3からの高さ）U（図2参照）は、好ましくは40mm以下、更に好ましくは5～25mmである。また、上記排泄部に当接する部位6における左右両防漏面24間の幅Tは、該防漏面24が中央吸収体部10の肌当接面2を塞がないように、30mm以上であるのが好ましい。

【0021】また、上記ウイング部30は、上記バックシート12の表面上に長形状のシート31を貼着して、上記左右両側縁部に連設されており、上記ウイング部30には、粘着部32が非肌当接面3側に設けられている。また、上記シート31の上記中央吸収体部10に貼着されている部分における表面（非貼着面）は剥離処理されており、これにより、生理用ナプキン1の使用前（保存時）には、上記ウイング部30を非肌当接面3に

向けて折り曲げ、上記シート31の表面に剥離自在に粘着させて粘着部32を保護することができる。上記シート31としては、上記バックシートに用いられるポリエチレンやポリエチレンテレフタレート（PET）等のプラスチックシート、及びラミネート加工を施した紙や不織布が用いられる。また、上記粘着部32は、上記ウイング部30の非肌当接面3側に粘着剤を塗布して形成されており、該粘着剤としては、通常公知の粘着剤を特に制限なく用いることができる。

【0022】本実施例の生理用ナプキン1は、上述の如き構造を有しているので、上記防漏面24が着用者の肌に良好にフィットし、横漏れを効果的に防止することができるものであり、具体的には上記サイドポケット25が形成されることにより、上記トップシート11の表面を流れた排泄物が上記サイドポケット25に一旦流入した後、上記中央吸収体部10の側面から上記吸収体13に吸収され、横漏れを効果的に防止することができ、更には、上記ウイング部30により、生理用ナプキン1を強固に固定することができるものである。

【0023】また、本実施例の生理用ナプキン1は、上記防漏面24の上記の排泄部に当接する部分にそれぞれ弾性部材26が配されている。上記弾性部材26が配されていることにより、上記防漏壁21の形状が良好に維持され、また、上記防漏面24の上記中央吸収体部10の肌当接面2と略平行な面状形状が良好に維持され、更には着用者に対するフィット性がより向上される。また、このように防漏面24〔折り返し線27（図2参照）より外方〕に弾性部材26を配することにより、上記サイドポケット25の形状を大きくすることができ、横漏れを効果的に防止することができる。上記弾性部材26としては、通常、吸収性物品に用いられる弾性部材であれば、特に制限されないが、ポリオレフィン類、ポリウレタン類の発泡体や天然ゴム等を特に好ましく用いることができる。また、その形状は、紐状、フィルム状、平面状等の形状とすることができ、本実施例においては、紐状の弾性部材を用いている。また、該弾性部材26の本数は特に制限されないが、該弾性部材26が紐状の形状である場合、2本以上であるのが、形状保持、横漏れ防止の点から効果的である。また、上記弾性部材26は、上記の弾性部材26を配した上記フラップ20の20%伸長時の応力が100g以下となるような弾性力を有するものを用いるのが好ましい。尚、本発明の吸収性物品は、上述の実施例に限定されるものではなく、例えば、使い捨ておむつ等に適用することもできる。

【0024】次に、本発明の吸収性物品の第2～第6の実施例について、図3～図7を参照して説明する。ここで、図3は、本発明の吸収性物品の第2の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕であり、図4は、本発明の吸収性物品の第3の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕であり、図5

は、本発明の吸収性物品の第4の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕であり、図6は、本発明の吸収性物品の第5の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕であり、図7(a)は、本発明の吸収性物品の第6の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕であり、図6(b)は、図7(a)に示す生理用ナプキンをショーツに装着した状態を示す断面図である。尚、第2の実施例～第6の実施例において特に説明しない点は上述した第1の実施例と同じである。

【0025】図3に示す第2の実施例の生理用ナプキン1は、上記フラップ20が、上記トップシート11及び上記バックシート12以外の他のシート40により形成されている。また、ウイング部30は、上記バックシート12の上記の排泄部に当接する部位6に対応する部分の左右両側縁部を延長して形成されている。

【0026】上記の他のシート40としては、防水処理を施したシート又は液不透過性シート等を用いることができる。上記の防水処理を施したシートとしては、撥水性油剤で処理した不織布等を挙げることができ、上記の液不透過性シートとしては、エチレン、ポリプロピレン等のプラスチックシート、又は不織布をラミネート加工したシート等を挙げることができる。

【0027】更に詳述すると、上記トップシート11は、吸収体13の左右両側面を覆って非肌当接面3側の左右両側縁まで被覆しており、上記他のシート40は、その縁部が、非肌当接面3側において、上記トップシート11と上記バックシート12とにより挟持固定されており、これにより、フラップ20が上記非肌当接面3側に連設されている。そして、上記フラップ20は、上記

第1の実施例におけるフラップ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縁で非肌当接面3に向けて折り返されており、弾性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。

【0028】図4に示す第3の実施例の生理用ナプキン1は、上記フラップ20が、上記トップシート11により形成されており、ウイング部30は、上記バックシート12の上記の排泄部に当接する部位6に対応する部分の左右両側縁部を延長して形成されている。具体的には、上記トップシート11は、吸収体13の左右両側面まで被覆させ、更に、左右両側縁を外方に向けて延長して形成されており、これにより、上記フラップ20が上記非肌当接面3側に連設されている。また、上記トップシート11の端部は、上記吸収体13の非肌当接面3側において上記吸収体13と上記バックシート12とにより挟持固定されている。そして、上記フラップ20は、上記第1の実施例におけるフラップ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縁で非肌当接面3に向けて折り返されており、弾

性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。また、この際、上記フラップ20を形成する上記トップシート11には、防水性が必要であり、この場合に用いることができる上記トップシート11としては、一般的に用いられているトップシートの材料におけるフラップを形成する部分のみを撥水処理したもの、吸収体に当接する部分は開孔しているがフラップを形成する部分は開孔していないプラスチックシート又はフラップを形成する部分にラミネート加工を施した不織布等が挙げられる。

【0029】図5に示す第4の実施例の生理用ナプキン1は、上記フラップ20が、上記トップシート11及び上記バックシート12により形成されており、上記ウイング部30が上記バックシート12により形成されている。具体的には、上記バックシート12における上記の排泄部に当接する部分に対応する部分の左右両側縁部を外方に向けて延長させて上記ウイング部30が形成されており、更に、上記バックシート12を上記トップシート11側に折り返して上記トップシート11と貼合させて、上述の第1の実施例と同様に上記フラップ20が形成されており、該フラップ20により、防漏壁21及び防漏面24を形成している。尚、上記の生理用ナプキン1においては、上記フラップ20全体がバックシート12とトップシート11とにより形成されている。このようなフラップ20及びウイング部30は、バックシート12をその長手方向全辺に渡って延長し折り返して上記トップシート11に貼り合わせて、上記中央吸収体部10の全辺に渡ってフラップ20を形成し、次いでバックシート12を折り返して2重に折り返された部分を上記ウイング部の所望の形状に合わせて切断して、上記ウイング部30を形成することにより作成される。

【0030】図6に示す第5の実施例の生理用ナプキン1は、上記ウイング部30が、上記非肌当接面3の左右両側部に2枚のシート31、31'を数設して形成されている。これ以外は、上記の第1の実施例と同様である。

【0031】図7(a)に示す第5の実施例の生理用ナプキン1は、上記ウイング部30が、上記非肌当接面3よりやや上方で、中央吸収体部10の長手方向に沿って接着剤を塗布して形成された接着部33を介して、上記フラップ20に固定されている。これ以外は、上記の第1の実施例と同様である。ここで、上記「やや上方」とは、非肌当接面3より上方で且つ防漏面24より下方であって、使用時にショーツに装着させてサイドポケット25を形成した際に防漏面24が肌当接面2よりも下方にならない位置であるのが好ましい。

【0032】そして、このように、構成されていることにより、上記生理用ナプキン1の使用に際して、図7(b)に示すように生理用ナプキン1をショーツ50に装着させた時に、より大きなサイドポケット25が形成

されるので、より効果的に横漏れを防止することができる。

【0033】尚、本発明の吸収性物品は、上述の実施例に限定されるものではなく、例えば、図1及び図2に示す第1の実施例において、下記の如き構成とすることもできる。即ち、本発明の生理用ナプキン1においては、図8に示すように、その前方縁部4において、折り返されたフラップ20を、その折り返された状態のまま防漏面を上にしてヒートシールして、固定してもよい。これにより、上記の排泄部に当接する部位6における上記フラップ20の形状を良好に維持することができ、更には、上記中央吸収体部10と上記フラップ20とが当接する部分の全域に上記サイドポケット25を形成することができる。この場合には、上記の前方部の固定点22を固定しなくてもよい。

【0034】また、本発明の生理用ナプキン1においては、その前方縁部4及び後方縁部5において、折り返されたフラップ20を、その折り返された状態のまま防漏面を上にしてヒートシールして、固定してもよい。これにより、上記の排泄部に当接する部位6における上記フラップ20の形状を良好に維持することができ、更には、上記中央吸収体部10と上記フラップ20とが当接する部分の全域に上記サイドポケットを形成することができる。また、前方縁部4及び後方縁部5において、折り返されたフラップ20を、その折り返された状態のまま防漏面を上にしてヒートシールして、固定した場合には、上記の前方部及び後方部の固定点22、23を固定しなくてもよい。

【0035】更に、第1の実施例では、上記中央吸収体部10の表面(肌当接面)で上記防漏壁21をトップシート11に固定した例で説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えば、上記中央吸収体部10の側方で上記防漏壁21をトップシート11に固定してもよい。

【0036】また、図1及び図2に示す第1の実施例においては、防漏壁の中央吸収体部への固定を点状に固定した例により説明したが、線状(吸収性物品の長手方向に沿った線状)に固定することもできる。この際、該線状の固定は、上記固定点と同様に接着剤又はヒートシール等により固定することができ、また該線状に固定して形成される固定部の長さは任意であり、上記の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部に形成される固定部の少なくとも何れか一方は、前方縁部又は後方縁部まで及んでいてもよい。

【0037】また、図1及び図2に示す第1の実施例においては、バックシート12のみで上記フラップ20を形成することもできる。更に、図1及び図2に示す第1の実施例においては、上記ウイング部30が排泄部に当接する部位6に対応する部分に設けられたものを例示して説明したが、上記ウイング部30を設ける場所はこれ

に限定されず、該排泄部に当接する部位6より、前方又は後方にずらして設けることもできる。また、本発明の吸収性物品においては、上記ウイング部30を形成する材料には、図3〜5に示す第2〜4の実施例の如く、上記ウイング部30がバックシート12と一体に形成されている場合を除いて、特に液体不透過性は必要なく、この場合には、通常の不織布や紙等の液透過性の材料を用いて上記ウイング部30を形成することもできる。また、図3及び図4に示すバックシート12によりウイング部30が形成された生理用ナプキンにおいては、該バックシートにおける中央吸収体部の前方に位置する部分、ウイング部を形成する部位に位置する部分及び中央吸収体部の後方に位置する部分のそれぞれを形成するバックシート部材を、それぞれ所定の位置に配して形成されたバックシートを用いることもできる。

【0038】

【発明の効果】本発明の吸収性物品は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性に優れ、横漏れの生じる恐れが少ないものであり、具体的には、下記効果①〜⑥が奏される。

①フラップと中央吸収体部との間にサイドポケットが形成され、上記トップシートの表面より体液が流れても該体液がフラップを伝わって漏れることがない。

②防漏面を生理用ナプキンの肌当接面よりも高い位置に設けることができるので、吸収体がよれて厚くなってもフィット性が低下することがない。

③防漏面が装着時に肌に沿って広がり、フラップが吸収体に折り込まれることがなく、安定してサイドポケットを形成することができる。

④防漏面が肌に沿って広がることにより吸収体のよれが抑制される。

⑤防漏壁と防漏面とにより液モレが抑制される。

⑥防漏面により、フラップの肌に対する広がりを促進でき、肌に対するフィット性を向上させて、違和感を低減させることができる。

⑦前後方縁部にてフラップを固定せずに、前後方縁部では該フラップが外方に開放して略フラットな面状形状をなすようにした場合には、この開放されたフラップにより、防漏面の肌当接面に対する略平行な形状及び防漏壁により形成されるサイドポケットを安定して形成、保持することができる。

⑧上記ウイング部を有しているので、使用時にショーツ等に強固に固定することができ、吸収性物品がその使用時にズレることが少ない。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明の吸収性物品の第1の実施例としての生理用ナプキンを示す斜視図である。

【図2】図2は、図1に示す生理用ナプキンのA-A断面を示す模式図である。

【図3】図3は、本発明の吸収性物品の第2の実施例と

1 1

1 2

しての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕である。

【図4】図4は、本発明の吸収性物品の第3の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕である。

【図5】図5は、本発明の吸収性物品の第4の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕である。

【図6】図6は、本発明の吸収性物品の第5の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕である。

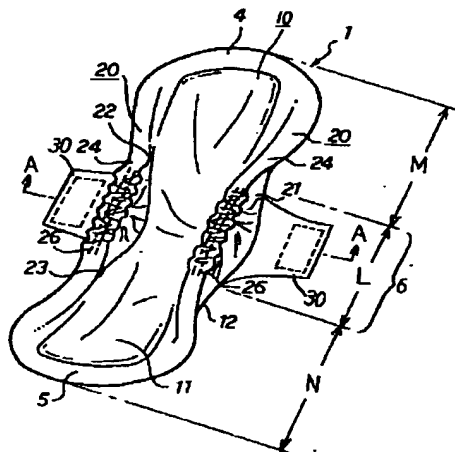
【図7】図7(a)は、本発明の吸収性物品の第6の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図2相当図〕であり、図7(b)は、図7(a)に示す生理用ナプキンをショーツに装着した状態を示す断面図である。

【図8】図8は、本発明の吸収性物品の他の実施例としての生理用ナプキンを示す斜視図〔図1相当図〕である。

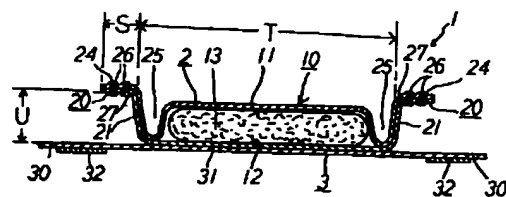
【符号の説明】

- 1 生理用ナプキン
- 2 肌当接面
- 3 非肌当接面
- 10 中央吸収体部
- 11 トップシート
- 12 バックシート
- 13 吸収体
- 20 フラップ
- 21 防漏壁
- 22 固定部
- 23 固定部
- 24 防漏面
- 25 サイドポケット
- 26 弾性部材
- 30 ウイング部
- 40 他のシート

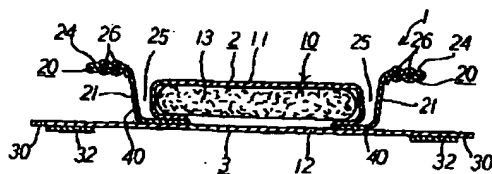
【図1】



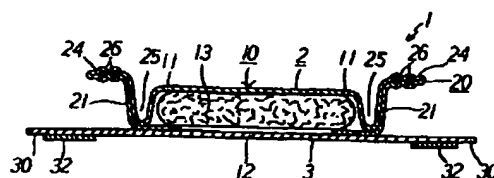
【図2】



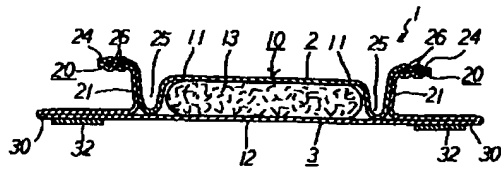
【図3】



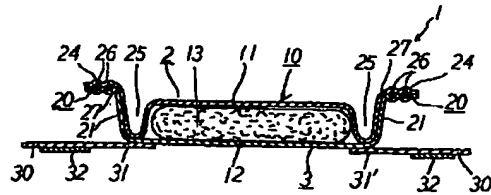
【図4】



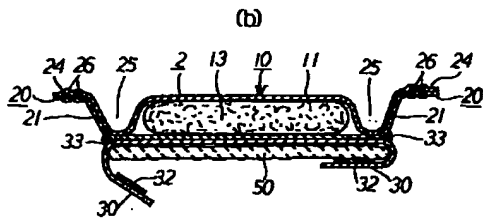
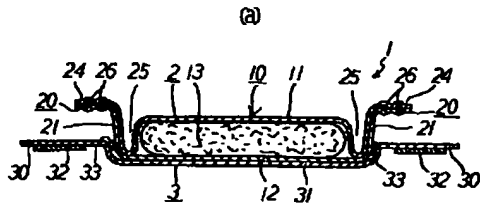
【図5】



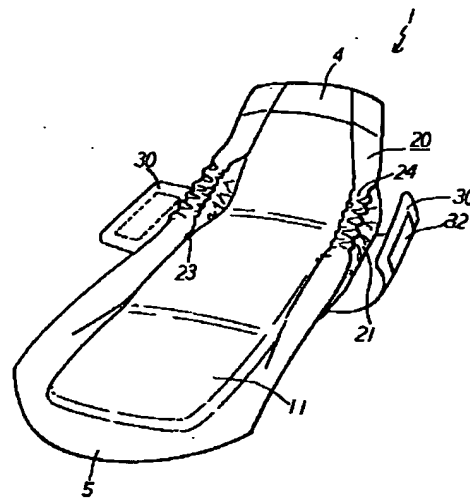
【図6】



【図7】



【図8】



フロントページの続き

(72)発明者 中西 稔

栃木県河内郡南河内町緑三丁目23-11